

平成19年 1月 11日

R & I 社から「AA+」の格付け評価

国立大学法人岡山大学

学長 千葉 喬三

国立大学法人岡山大学は、国内最大格付機関である株式会社格付投資情報センター（R & I）による発行体格付けを行い、平成19年1月11日、次のとおりの格付けを取得しました。

発行者	国立大学法人岡山大学
格付けの名称	発行体格付け
格付け	AA+
格付けの方向性	安定的

これは、R & I が行う、21段階ある格付けの上から2番目という非常に高い評価です。「AA」は“信用性は極めて高く、優れた要素がある。”という格付であり、「+」は“最上位（AAA）に近く”，「安定的」は“格付けを今後見直す場合、当面変更はない”ことを表しています。

岡山大学が「格付け評価を行った理由」は次のとおりです。

岡山大学は、教育研究活動、業務運営に関する第三者評価として、平成19年度には機関別認証評価を、また、平成20年度には国立大学法人評価（暫定評価）を受審しますが、いずれの評価も、当然、大学としての本来業務である教育研究 社会貢献等の内容に重きが置かれます。しかし、R & I の評価（格付け）は、これらの活動を支える、法人化後の自主経営の方策、財務・経営基盤等を評価します。R & I の格付けを第三者評価として実施し、経営戦略・改善のための指標として「格付け」を活用することが有用であると考えました。また、ステークホルダー（利害関係者）への情報開示（説明責任）にも寄与するものと考えました。さらに、今後想定される多様化する資金調達をも見据えています。

この度のR & I の「格付け理由と方向性」は、次のとおりです。

「岡山大学は2004年4月の法人化後、意向投票結果のみによる学長選出を取りやめたり、各種の委員会を廃止するなど、新しい形の組織運営を実践している。国立大学としてはいち早く教職員の評価制度を導入するなど、先進的な取り組みには評価も高い。これまでのところ中期目標・中期計画は順調に進展している。運営費交付金の削減が進む環境にあって、岡山大学では競争的資金の獲得を最

重点目標に掲げている。組織の体制整備とともに獲得額は増加し、同時に研究水準の高度化も図っている。国家公務員数の削減目標が国立大学にも準用されることを受けて、岡山大学では人件費の削減に関する全学の合意を得た。支出の削減が不可避な環境にあっては現実的な対応を取らざるを得ず、いち早く人件費削減の道筋をつけたことは評価できる。附属病院は全国の国立大学附属病院のなかでも存在感が大きい。例えば手術件数では東京大学、大阪大学に次いで第三位であるなど、高度な医療を手がけつつ、収支も比較的良好である。

旧制帝国大学を母体とする国立大学法人などに比べると国家資金や外部資金を獲得する力は今のところやや弱いとみられ、これが格付けを制約している。しかし、組織運営の工夫などによってこれを補う取り組みに成果を上げている点は評価できる。

以上を総合的に判断し格付けはAA+, 格付けの方向性は安定的とした。」

この度の格付け評価に当たり、岡山大学においてR&Iによる格付インタビューが実施されました。この時、学長としてトップミーティングを受け、「優秀な学生、質の高い教員及び外部資金の獲得」、「大学院教育の充実に重点を置く岡大教育体系の確立」、「重点研究プロジェクトの推進」、「附属病院の活性化」、「物事は評価から始まることの実践」、「事務の改善」等について説明しました。結果として、岡山大学の健全な財政運営に基づいた教育、研究、医療、管理についての経営方針が総合的に高く評価されたと意を強くしています。

なお、格付けを制約しているとして指摘された点、「国家資金や外部資金を獲得する力」については、これを真摯に受け止め、さらなる教育の高度化・研究の活性化を図るとともに、外部資金の獲得に最大限の努力を惜しみません。

【R&Iが行う発行体格付け】

発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力に対するR&Iの意見

(格付符号)

AAA, AA, A, BBB, BB, B, CCC, CC, Cの9段階があり、AAからCCCについては、さらに上位に近いものに「+」、下位に近いものに「-」を表記する。全部で21段階の評価となる。

(格付けの方向性)

ポジティブ	格付を今後、格上げの方向で見直す可能性が高いと判断する場合
ネガティブ	格付を今後、格下げの方向で見直す可能性が高いと判断する場合
安定的	当面変更の可能性が低い場合
方向性未定	いずれの表記にもあてはまらない場合